

さくら湖 自然環境フォーラム 2018

場所：三春交流館「まほら」まほらホール

期日：平成30年11月9日(金)～10日(土)

～入場無料・参加予約は不要です～

☆主催：さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
 (三春ダム維持管理協議会 国土交通省三春ダム管理所 福島県土木部河川整備課
 一般財団法人水源地環境センター 応用生態工学研究所 さくら湖流域協働ネットワーク
 三春町教育委員会 中妻まちづくり協会 中郷まちづくり協会)

☆共催：一般社団法人東北地域づくり協会

☆後援：福島民報社 福島民友新聞社 大滝根川流域生活排水対策推進協議会

【1日目】11月9日(金) 三春ダム(さくら湖)ができて20年～生き物の大切さを学ぶ

◎第1部【研究報告・発表】 13:00～14:20

1)研究報告

「さくら湖自然観察ステーションの活動」 さくら湖自然観察ステーション企画運営委員

「三春ダムができて20年の自然環境の変遷」 国土交通省三春ダム管理所 専門官 片寄 仁 氏

2)研究発表

「三春の自然を守り隊」 三春町立中妻小学校第3,4学年のみなさん

「中郷の水環境」 三春町立中郷小学校第4学年のみなさん

「お米ができるまで～田んぼでみつけた生きもの～」 三春町立岩江小学校第5学年のみなさん

～ 休憩 ～ 小ホールでは三春ダム管理所展示説明があります

14:20～14:35

◎第2部【記念講演】

14:35～15:50

「生物多様性とはなにか？なぜ守るのか？」講師 国立環境研究所研究員 五箇 公一 氏

【2日目】11月10日(土) 応用生態工学会仙台 東北地域研究発表会・シンポジウム

◎午 前【平成30年度東北地域 研究発表会】 11:00～12:00

発表テーマ「ダム、河川等の生態系、水質等に関する研究発表」

◎午 後【公開シンポジウム】さくら湖ができて20年でわかったこと 13:00～16:30

○基調講演「“さくら湖”建設当時の環境に対する思い」伊藤 寛 氏(前三春町長)

「ダム湖水質の将来と予防—温暖化と土地利用の視点から—」

占部 城太郎 氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)

「環境DNAを利用した生態系観測—現状と今後の展開—」

近藤 倫生氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)

○パネルディスカッション

パネリスト:研究者:木村 文宣 氏((一財)水源地環境センター)「三春ダム建設後20年間の水質の変化」

中井 克樹 氏(琵琶湖博物館 主任学芸員)「“さくら湖”での外来魚問題への取り組み」

竹原 明秀 氏(岩手大学人文社会学部 教授)「三春ダムをとりまく植物的自然環境」

さくら湖管理者:中川 博樹 氏(国土交通省三春ダム管理所長)「“さくら湖”管理者としての環境への取り組み」

自治体関係者代表:鈴木 義孝 氏(三春町長)「“さくら湖”の環境に対する要望」

コーディネーター:梅田 信 氏(東北大学大学院工学研究科 准教授)

本事業は、(一社)東北地域づくり協会みちのく国づくり支援事業の支援により実施しています

問合せ・連絡先【1日目】さくら湖自然環境フォーラム実行委員会事務局(三春町教育委員会生涯学習課)

〒963-7759 福島県田村郡三春町字大町191 三春交流館まほら内 電話:0247-62-3837

【2日目】応用生態工学会仙台 事務局:佐藤 高広

Eメール:takahiro@sendai.fgc.co.jp Tel:022-217-2026(株)復建技術コンサルタント都市・環境部

さくら湖自然環境フォーラム2018

開催主旨

開催地三春町を含めた「さくら湖自然環境フォーラム実行委員会」では、地域住民が、環境についての認識を深め、地域の自立的・持続的な発展に資することを基本理念に、『さくら湖自然環境フォーラム』を平成12年(2000年)から毎年開催してきました。水質・土地利用・動植物・外来魚などをテーマに、小中学生から専門の研究者までさまざまな立場から、さくら湖に関わる貴重な報告、発表、講義をいただいております。

第19回目の平成30年度は、三春ダム20周年記念事業として、20年間の継続的な研究の成果から、地域の今を観察した報告まで、盛りだくさんの内容を2日間の拡大版として開催いたします。

【1日目】11月9日(金)

さくら湖自然環境フォーラム

三春ダム(さくら湖)ができて20年～生き物の大切さを学ぶ

プログラム

開会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 会長 鈴木 義孝

【第1部】 研究報告・発表 13:05～14:30

(1)『さくら湖自然観察ステーション企画運営委員の活動』

さくら湖自然観察ステーション企画運営委員 山口 登美男 氏

『三春ダムができて20年の自然環境の変遷』

国土交通省三春ダム管理所 専門官 片寄 仁 氏

(2)『三春の自然を守り隊』 三春町立中妻小学校3、4年生のみなさん

『中郷の水環境』 三春町立中郷小学校4年生のみなさん

『お米ができるまで～田んぼで見つけた生きもの～』

三春町立岩江小学校5年生のみなさん

休憩 14:30～14:45

【第2部】 記念講演 14:45～15:50

『生物多様性とはなにか?なぜ守るのか?』

講師 国立環境研究所 室長 五箇 公一 氏

閉会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 副会長 中川 博樹

基調講演

生物多様性とは何か?なぜ守るのか?

講師: 国立研究開発法人国立環境研究所

生物・生態系環境研究センター

生態リスク評価・対策研究室長

五箇 公一 氏

先生から
ひとこと

ミシシッピアカミミガメ、アメリカザリガニ、オオクチバス、アライグマ……。今身近な自然がどんどん外来生物たちに置き換わっています。どうしてこんなに外来生物たちが増えてしまったのでしょうか?

その理由は全て私たちの生活のなかにあります。

今、人間は、自分たちの生活のために自然環境を大きく作り変え、様々な生物たちの数を減らしたり、移動させたりを繰り返しています。こうした活動が、いま野生生物たちの世界に異変をもたらし、結果的に私たちの生活にも危機が迫ってきています。

どうすれば外来生物を減らせるのか?どうすれば生物や自然と共生できるのか? みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



講師: 五箇 公一 氏
(ごか こういち)

○ プロフィール ○

1990年 京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了

1990年 宇部興産株式会社農薬研究部入社

1996年 京都大学博士号(論文博士)取得(農学)

1996年 国立環境研究所入所

2016年から現職,現在に至る。

専門は保全生態学・環境毒性学・農薬科学・ダニ学

著書

『クワガタムシが語る生物多様性』(集英社)
『終わりなき侵略者との闘い』(小学館)

共著

『温暖化事典』(丸善出版)
『感染症の生態学』(共立出版)
『昆虫科学読本』(東海大学出版部)
『人間活動と生態系』(共立出版)
『いきものがたり』(ダイヤモンド社) 他

環境省・外来生物法の策定や農林水産省・農薬取締法の改正など、環境リスクにかかる国の法律・制度に専門家委員としてかかわる。

テレビや新聞等マスコミを通じて、生物多様性の意義や生態リスク管理の啓蒙にもつとめている。

【2日目】11月10日(土)

応用生態工学会仙台 東北地域研究発表会・シンポジウム

三春ダム(さくら湖)は、平成30年度に竣工20年の区切りを迎えた。この間「さくら湖」は、ダム湖の環境に関する研究フィールドとして多くの研究者に利用されており、その成果の多さは、全国のダム湖でトップクラスとして知られている。そこで、これまでの環境調査の成果等を活用して「さくら湖」建設当時を振り返りつつ、現在(約20年後)までの環境変化の特徴を明らかにしつつ、ダム湖等の環境課題に関する研究者の最新知見も踏まえ、「さくら湖」を事例とした、ダム湖の生態系・水質等の環境に関する環境保全のあり方、及び今後の課題等を考える。

主催: 応用生態工学会仙台、三春ダム20周年記念事業実行委員会、さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
 共催: (一社)東北地域づくり協会
 後援: (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、東北環境アセスメント協会
 主管: 応用生態工学会仙台 ※大会実行委員長 梅田 信 氏(東北大学大学院工学研究科 准教授)

プログラム

【午前】平成30年度東北地域 研究発表会・・・11:00~12:00

発表テーマ: ダム、河川等の生態系、水質等に関する研究発表

No.	発表タイトル	代表発表者(所属)
1	里山の森林生態系における放射性セシウムの動態把握と将来予測	間瀬 皓介 (千葉大学大学院園芸学研究科)
2	保全措置として移植したフクジュソウ個体群の動態～20年にわたる長期モニタリングから見てきたこと～	稲川 崇史 (応用地質株式会社)
3	三春ダムにおけるオオクチバス防除試験でみられた産卵床の干し上げ数および年齢構成の変化	坂本 正吾 (応用地質株式会社)
4	環境DNAメタバーコーディング手法を用いたダム湖の魚類相把握	速水 花奈 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
5	河川と湖における水生生物への放射性セシウム移行	石井 弓美子 (国立開発研究法人国立環境研究所福島支部)
6	アニマルパスウェイの改良設計とニホンリスの利用状況	香川 裕之 (東北緑化環境保全株式会社)
7	モバイルPCR装置を用いた環境DNA迅速検出システムの開発	渡部 健 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
8	水温成層したダム貯水池における微細流動観測	水田 直樹 (東北大学大学院工学研究科)
9	河川管理の現場への環境DNA導入に向けて	鈴木 宏幸 (国立研究開発法人土木研究所)
10	干潟ベントス群集に及ぼす津波攪乱の影響	柚原 剛 (東北大学大学院生命科学研究科)
11	河川植生に着目したUAVによる河川管理の高度化	那須野 新 (株式会社復建技術コンサルタント)

No.	発表タイトル	代表発表者(所属)
12	天然記念物「赤井谷地」における植生再生地の動態	竹原 明秀 (岩手大学人文社会科学部)
13	仙台湾東谷地干潟における魚類群集の時間と空間のβ多様性	村上 純一 (東北大学大学院生命科学研究科)
14	湖沼の二次生産に及ぼす陸上起源有機物の影響:エンクロージャー実験による評価	平間 文也 (東北大学大学院生命科学研究科)
15	河川水辺の国勢調査における環境DNAを活用した夜行性鳥類の把握	山本 和司 (株式会社復建技術コンサルタント)
16	三春ダムにおけるブルーギルの産卵場特性と防除手法	大杉 奉功 (一般財団法人水源地環境センター)

【午後】公開シンポジウム・・・13:00~16:30

「さくら湖ができて20年でわかったこと」

■基調講演 【13:00~14:20】

「“さくら湖”建設当時の環境に対する思い」

伊藤 寛 氏(元三春町長)



「ダム湖水質の将来と予防—温暖化と土地利用の視点から—」

占部 城太郎 氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)



「環境DNAを利用した生態系観測—現状と今後の展開」

近藤 倫生 氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)



■パネルディスカッション 【14:30~16:30】

＜コーディネーター＞

梅田 信 氏(東北大学大学院工学研究科 准教授)

＜パネリスト＞

(研究者)

木村 文宣 氏((一財)水源地環境センター 主任研究員)

「三春ダム建設後20年間の水質の変化」

中井 克樹 氏(滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員)

「“さくら湖”での外来魚問題への取り組み」

竹原 明秀 氏(岩手大学人文社会科学部 教授)

「三春ダムをとりまく植物的自然環境」

(さくら湖管理者)

中川 博樹 氏(国土交通省三春ダム管理所長)

「“さくら湖”管理者としての環境への取り組み」

(自治体関係者代表)

鈴木 義孝 氏(三春町長)

「“さくら湖”の環境に対する要望」